

生活をつくる子どもたち

主幹教諭 松井 直樹

本校には、異学年集団で構成される「生活団の活動」があります。4月の「和楽会」は1年生を迎える会、そして生活団立ち上げの意味が込められている学校行事でした。最上級生の6年生は、この日のために、企画・運営に知恵を出し、心を配って準備し、また他の学年もプレゼントづくりなど、とてもよく頑張りました。当日は、気持ちのよい空の下、団ごとに予定のプログラムを実施して、1年生の入団を歓迎するとともに、生活団の1年間の長旅に向けて船出をしました。1年生保護者の皆様にもその様子をご覧いただくことができました。

さて、菊の園は「生活をつくり（自己生活力）、学習をつくり（自己学習力）、自分をつくる（自己教育力）」ことを大切にしてきました。学校生活は子ども自身による生活の場づくりから始まります。4月からの新しい学校生活に慣れ、集団生活の楽しさを感じながら学校生活に少しずつ自信をもつことができることが出発点です。その自信が育まれる場は、「学級、学年」での多様な共有体験、そして「第2の学級」とも称される「生活団」での異学年でのふれあいを中心とした豊かな体験活動です。

今、学級・学年に目を向けると、遠足でのグループ活動、移動教室での体験別グループ学習が行われています。課題別の活動を共有すること、宿泊等を通して自分や仲間に対する新しい発見ができること、これは単なる学習ではなく、生き生きとした過ごし方ができる自己生活力を育むことが期待できます。生活団に目を向ければ、現在、菊や畑の活動にも取り組んでいます。これは、生活団で行う「きくまつり」での菊の鑑賞や収穫の取り組みがその成果となるでしょう。このような体験活動が生活での自信を生み出し、学習にもつながって、自分らしい生き方に結びつくと考えて大泉小学校は時を経てきました。

この3月の卒業式に驚く光景がありました。人数を限定した卒業式が進行する中、学習ホール下に数名の学生が集まり始めたのです。卒業式が終わり、その様子を見るとその学生らは、卒業する子どもたちが1年生の時にともに過ごした当時の6年生でした。この6年生は学年目標「君が笑ってくれるなら」をテーマにペアの1年生だけでなく、相手のことをしっかりと考えて生活していくことを基盤においた学年でした。話を聞いてみると、「当時の生活団のペアの子に卒業おめでとうの気持ちを伝えたい」と連絡を取り合い、集まったということでした。先輩教員に同うと、このような光景は本校では珍しくないということです。

卒業式で見た光景から、あらためて異学年集団での活動は、時間が経過しても人づくり、人間関係づくりの花や実を育てていることを実感しました。本校は本年度PYP認定校として新たに歩みだしましたが、菊の園のこれまでの取り組みは今後も大切にそして進化していかなければならないと考えています。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、個人面談で大変お世話になりました。子どもたちが自ら自分を育てる、その後押しとなるにはどのようなことが考えられるのか、今後も共に考えてまいります。子どもたちが育てている菊や畑の作物とともに「生活をつくる」子どもたちの成長も支えて見守っていきましょう。

【参考】『学習をつくる 生活をつくる 自分をつくる 豊かな学力はどう育てるか 児島邦宏 東京学芸大学附属大泉小学校編著』
るお便りをご覧ください。